

# モーツァルト室内管弦楽団 第192 回定期演奏会


Mozart-Kammerorchester Japan / 192.Regulärkonzert

〈モーツァルト・オペラシリーズ〉再々演！

## モーツァルト 《魔笛》 K.620 全曲

2020年1月13日(月・祝)午後3時●いずみホール

Montag, 13. Januar, 2020, 15 Uhr●Izumi Hall Osaka

- 主催：NPO法人モーツァルト室内管弦楽団 <http://moz-kam.org>
- 特別協賛： 株式会社高松コンストラクショングループ
- 協賛：いずみホール〔一般財団法人 住友生命福祉文化財団〕
- マネジメント：大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504

\*ロビーでは大阪ユニセフ協会を通じて、世界の子どもたちのための募金活動を行っています。



## モーツァルト室内管弦楽団 第192回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester Japan / 192.Regulärkonzert

2020年1月13日(月・祝)午後3時●いずみホール

Montag, 13. Januar, 2020, 15 Uhr●Izumi Hall Osaka

〈モーツァルト・オペラシリーズ〉再々演!

モーツァルト (Wolfgang Amadeus Mozart, 1756-1791)

### 《魔笛》K.620

W.A.Mozart : „Die Zauberflöte“ KV 620

台本:エマヌエル・シカネーダー/Text von Emanuel Schikaneder

全曲/準オペラ形式原語上演(台詞は日本語)/日本語字幕付

#### 序曲

#### 第1幕

- No. 1 導入部(タミーノ、3人の侍女)「助けてくれ! 助けてくれ!」
- No. 2 アリア(パパゲーノ)「そうだよ、おれは鳥刺しさ」
- No. 3 アリア(タミーノ)「この絵姿の美しさは」
- No. 4 レシタティーヴォとアリア(夜の女王)  
「おお、恐れずともよい、いとしい息子よ」
- No. 5 五重唱(パパゲーノ、タミーノ、3人の侍女)「フム、フム、フム」
- No. 6 三重唱(モノスタス、パミーナ、パパゲーノ)  
「かわいい子ちゃんよ、入んな」
- No. 7 二重唱(パミーナ、パパゲーノ)「愛を感じるほどの男には」
- No. 8 フィナーレ(3人の童子、タミーノ、弁者、パミーナ、パパゲーノ、  
モノスタス、群衆、ザラストロ)  
「この道をたどれば目的地に着きます」

\* \* \*

#### 第2幕

- No. 9 僧侶たちの行進
- No. 10 合唱付きアリア(ザラストロ、僧侶たち)「イシスとオシリスの神よ」
- No. 11 二重唱(僧と弁者)「女のたくらみから身を守れ」
- No. 12 五重唱(3人の侍女、パパゲーノ、タミーノ、僧侶たち)  
「どうして? こんな恐ろしいところにいるの?」
- No. 13 アリア(モノスタス)「誰だって恋の喜びは感じるさ」
- No. 14 アリア(夜の女王)「地獄の復讐が私の心に煮え立っている」
- No. 15 アリア(ザラストロ)「この聖なる殿堂では復讐を知る者はいない」
- No. 16 三重唱(3人の童子)「あらためて歓迎のご挨拶を」
- No. 17 アリア(パミーナ)  
「ああ、私にはわかる 永遠に愛の幸せが消え去ったことが」
- No. 18 僧侶たちの合唱「おお、イシスとオシリスの神よ 何という喜び!」
- No. 19 三重唱(パミーナ、ザラストロ、タミーノ)  
「いとしい人よ、もう会えないのですか?」
- No. 20 アリア(パパゲーノ)  
「娘っ子が可愛い女房がひとり、パパゲーノは欲しいよう」
- No. 21 フィナーレ(3人の童子、パミーナ、2人の武士、タミーノ、群衆、  
パパゲーノ、パパゲーナ、夜の女王、3人の侍女、モノスタス、  
ザラストロ)  
「やがて朝を告げるため太陽が黄金の軌道に」

#### キャスト

ザラストロ	松下 雅人(バス)
夜の女王	四方 典子(ソプラノ)
タミーノ	諏訪部 匡司(テノール)
パミーナ	鬼一 薫(ソプラノ)
パパゲーノ	西尾 岳史(バリトン)
パパゲーナ	西田真由子(ソプラノ)
弁者	萩原 寛明(バリトン)
モノスタス	橋本 恵史(テノール)
第一の侍女	白石 優子(ソプラノ)
第二の侍女	櫻井 孝子(ソプラノ)
第三の侍女	山田 愛子(メゾソプラノ)
第一の童子	大嶋真規子(ソプラノ)
第二の童子	山田 千尋(ソプラノ)
第三の童子	麻生 真弓(メゾソプラノ)
第一の武士	西垣 俊朗(テノール)
第二の武士	西垣 俊紘(バス)
僧	近藤 達夫(テノール)
合唱	モーツァルト記念合唱団
合唱指揮	益子 務
管弦楽	モーツァルト室内管弦楽団
コンサートマスター	釋 伸司
指揮	門 良一

#### スタッフ

演出	西垣 俊朗
制作	西垣 俊朗 益子 務 門 良一
字幕	門 良一



## モーツァルトの「超現実力」と《魔笛》

モーツァルトの「白鳥の歌」はなにかという問題は議論のあるところであろう（「白鳥の歌」とは、白鳥が死の直前に美しい声で鳴くという伝説から、大作曲家の最後の作品をこのように言う）。事実上の最後の作品は《レクイエム》K.626であるが、これはバロック音楽の影響を受けてヘンデルのスタイルを模して作られたものでいささか毛色が違う。《魔笛》と並行して作曲された《皇帝ティトゥスの慈悲》K.621はモーツァルトを庇護したオーストリア皇帝ヨーゼフ2世の死後に即位したレオポルト2世の戴冠式のために依頼された作品であるが、オペラ・セリアという時代遅れの形式の故か、近年再評価の声はあるものの、モーツァルトの傑作とは認められていない。《魔笛》はこの2曲に先んじて作曲されているが、モーツァルトが思う存分自己のスタイルを駆使して、最初から最後までモーツァルト様式を貫いた大傑作であり、これこそモーツァルトの「白鳥の歌」と言うていいのではないだろうか。死ぬ3ヶ月足らず前の完成というにもかかわらず全曲が美しい音楽に満ちていて、楽しさあふれる一大エンターテインメント作品である。モーツァルト自身も自信作と思っていて、仇敵であるはずのアントニオ・サリエリとその愛人カテリーナ・カヴァリエリ（モーツァルトのウィーンでの最初のオペラ《後宮からの誘拐》のヒロイン、コンスタンツェの初演歌手）を上演に招待している。『きのう（10月13日）の木曜日にぼくがサリエリとカヴァリエリを馬車で迎えに行き、二人をボックスに案内した。二人ともどんなに愛想がよかったか、お前には信じられないだろう。ぼくの音楽だけではなく、台本も、何もかもひっくり返して、二人には大いに気に入った。（中略）サリエリは序曲から最後の合唱まで、とても熱心に聴きもし観もしていたが、あの人の口から「ブラヴォー」とか「きれいだ」とかいう言葉を誘い出さない部分はひとつもなかった。』（1791年10月14日、ウィーンのモーツァルトからバーデンで湯治中の妻コンスタンツェへの手紙。「モーツァルトの手紙」柴田治三郎編訳、岩波文庫、1980年より）。《魔笛》は当時上演を重ねるに従ってどんどん人気を増していったようだ。今日では《フィガロの結婚》とならぶモーツァルトの最も有名なオペラとなっている。

さて、《魔笛》に関して今日でも議論が尽くされていない問題点が二つほどある。一つは、このオペラにフリーメイソンが関わっているという話であり、もう一つは筋書きの不自然さである。フリーメイソンというのは正体不明の宗教的秘密結社で、フランス革命やアメリカ合衆国の独立に深く関わったという話もある。モーツァルトの時代、ひそかにこの結社の会員になることが上流階級の流行でもあったように、モーツァルト自身も会員になり、その推薦で父親のレオポルトやハイドンも入会しているのだ。モーツァルトはフリーメイソンのための音楽作品を多く書いており、葬送音楽やカンタータなどがある。交響曲第39番もそのような作品の中に入ると言われている。《魔笛》というオペラは、モーツァルトのザルトブルク時代からの友人である興行師エマヌエル・シカネーダーの依頼によって作曲されたのだが、このシカネーダーという人物もフリーメイソンの会員であった。《魔笛》ではフリーメイソンの起源や教義が表現されていると言われる。モーツァルトはこのオペラで秘密にしておかなければならないそれらのことを明らかにしすぎたという罪で、フリーメイソン派に暗殺された、という説もあるくらいである。こういう話が完全に解明されるにいたらないのは、フリーメイソンという組織そのものが外部の者にはよくわからない点にあるだろう。

もう一つの筋書きの不自然さであるが、これはもうこのオペラを観る誰もが感じることであろう。王子タミーノは夜の女王に娘パミーナが悪者のザラストロ一味にさらわれたから救い出してくれと頼まれるのだが、行ってみるとザラストロは高潔な僧で、夜の女王は彼の王国を奪おうとする悪者とわかる、ということになってドラマの途中で善悪が逆転してしまうのである。モノスタスというムーア人がザラストロの陣営から夜の女王側に寝返るのはよくわかるのだが、3人の童子はいったいどっちの味方なのか、さっぱりわからない。そもそもタミーノやパパゲーノを救うことに

なる「魔法の笛」や「魔法の鈴」は3人の侍女が夜の女王の指示で彼らに贈ったもので、その贈り主が地獄に落ちてしまうというのには納得しかねるところである。

モーツァルトの〈大オペラ〉と言われるもののうち、《イドメネオ》、《後宮からの誘拐》、《フィガロの結婚》、《コジ・ファン・トゥッテ》の4つは宮廷からの注文によるものである。《ドン・ジョヴァンニ》は《フィガロの結婚》がブラハで大当たりをとったためそのブラハの劇場から依頼された。それに対して《魔笛》は当時のウィーンの城壁の外側にあったアウフ・デア・ヴィーデン劇場を率いていたシカネーダーからの依頼によるもので、上記の他の5つのオペラとは全く違う、いわば場末の大衆劇場向けの「歌芝居」なのである。

モーツァルトも依頼者のシカネーダーもフリーメイソンの会員であったから、このオペラにフリーメイソンの思想を盛り込んで観客を啓蒙しようという意図はあったかもしれないが、大衆劇場の観客にとってはこのオペラがきれいな音楽がいっぱいあって華やかで楽しければいいのであって、フリーメイソンなど関係がないし、筋書きが途中で多少変わろうと知ったこっちゃないのである。

それなのに、それらの問題点がいまだに真剣に論じられるのはなぜだろうか。それはモーツァルトが音楽をつけたからである。モーツァルトの音楽の持つ「超現実力」が問題を複雑にしていると言えると思う。

モーツァルトの「超現実力」とは何か。これについては以前にこの欄で述べたので多少重複するかもしれない。たとえば《フィガロの結婚》の終幕近くの伯爵の謝罪の場面を思い浮かべていただく。スザンナとの浮気の現場を押さえられた伯爵は（実は伯爵夫人がスザンナに化けていたのだが）、皆の前で膝をつき神妙に謝罪する。この場の音楽は極めて崇高で宗教的ですからある。浮気な伯爵はあくの日から女の尻を追っかけまわすに決まっているというのが現実であろうが、それを超えたいわば理想的ななりゆきを信じ込ませる力、つまり超現実的な力をモーツァルトの音楽は持っている。あるいは《ドン・ジョヴァンニ》を見てみよう。これは「悪者は地獄に落ちる」という至極単純な勧善懲悪劇なのだが、モーツァルトの作り上げるドン・ジョヴァンニの存在感があまりにも大きいので、主人公が地獄に落ちた後の最後の6重唱が、めでたしめでたしとならず、非常に寂しく哀しく感じられるほどである。

モーツァルトの「超現実力」が最も成功しているオペラが《コジ・ファン・トゥッテ》である。このドラマにおいてはふた組のカップルの男性二人が出征すると偽り、変装して戻ってきて女性二人を相手と交換して口説き、ほとんど成功してしまう、という現実にはまず絶対に起こり得ないシチュエーションが設定されている。モーツァルトの音楽の力は観る者にこのあり得ないなりゆきを信じこませ、「真実の愛と浮気心との間に何の違いもない」という人生の冷徹な真理をつきつけるのである。

《魔笛》はその前の5つのオペラと違い、大衆向けにわかりやすく楽しいオペラになっているが、全体としてモーツァルトの「超現実力」が働いて、この空想的な物語に真実味を与えている。悪者であるはずの夜の女王にも迫真の存在感があるので、筋書きの不自然さが注目される結果となるのだ。第1幕中ほどのパパゲーノの「フム、フム、フム」で始まるパパゲーノ、タミーノ、3人の侍女による五重唱にご注目ありたい。その終わり近く、タミーノがザラストロの城への道筋を3人の侍女に尋ねる場面で、極めて美しい夢のような音楽が流れて5人の間に何とも言えないなごやかな雰囲気が生まれるのだが、第2幕以降のなりゆきを「現実」とするなら「超現実的」と言えるその雰囲気はモーツァルトの音楽の力によるものである。その「超現実力」の源泉は、過去の、他人の、そして自己の様式を完全に消化し切って、それまでのすべての音楽様式を統合したモーツァルトの「総合力」であると思う。

（「第180回定期演奏会」のプログラムより転載）



## 門 良一●指揮

Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。1962年京都大学理学部物理学科卒業、67年同大学院終了。京都大学オーケストラには学部、大学院を通じて10年間在籍し、フルート奏者、指揮者を務め、同オーケストラの発展に多大な貢献をする。また、客演指揮者の故近衛秀麿、故朝比奈隆、故岩城宏之、故若杉 弘、故奥田道昭、秋山和慶各氏等のもとで副指揮者を務め、薫陶を受ける。70年モーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり、同楽団を日本有数のプロ室内オーケストラに育て上げた。モーツァルト、ハイドン等の古典派の作品を35人の室内オーケストラで優雅に繊細に演奏する独自のスタイルを確立している。企画力にも優れ、モーツァルトの「予約演奏会の再現」やオペラ《イドメネオ》の世界初ノーカット上演などの大きな企画を成功させている。また、世界的名手との協演も多く、ピアノのマリア=ジョアオ・ピリス、シブリアン・カツァリス、ヴァイオリンのライナー・キュッヒル、ホルンのペーター・ダム等との協演においてはソリストの絶大な信頼を得て大成功を収めている。近年は古典派だけでなく前期ロマン派やフランス音楽においても、企画、演奏両面で注目すべき成果を上げている。アマチュアの指導にも熱意を持ち、京都産業大学神山交響楽団の音楽監督・常任指揮者を創立時より昨年まで務めている。モーツァルト研究者として知られ、1982～2011年NHK大阪文化センター、1992～2011年同神戸文化センターにおいて「モーツァルトを聴く」の講師を務める。京都産業大学名誉教授。



## 益子 務●合唱指揮

Tsutomu Masuko / Chor-Dirigent

1965年に京都大学卒業後、同大学院に進む。インディアナ州立ボールステイト大学院で声楽修士号、同大学院博士課程修了。武庫川女子大学音楽学部31年間勤め、学生及び後進の指導にあたる。2009年3月同大学教授を退任。その間、芸術学、音楽心理学、教育学の分野の研究に取り組み、研究テーマには「オペラ演出における現代性の研究」「重度障害者に対する音楽療法評価方法」などがある。著書「音楽療法と行動変容 その音楽的要素の検討」(1995)。




www.kincho.co.jp

温感香料で温まる

# 香る

# どんと

貼れる  
うす型フィット!



生姜香る  
どんと  
貼れる  
うす型フィット!

ぽかぽか



よもぎ香る  
どんと  
貼れる  
うす型フィット!

ほのかな香り





**松下 雅人(バス)●ザラストロ**  
 国立音楽大学大学院オペラ科修了。国際ロータリー財団奨学生としてモーツァルトウム音楽院に留学。ドイツ・ボン歌劇場の専属バス歌手を務める。名古屋音楽大学教授。



**四方 典子(ソプラノ)●夜の女王**  
 同志社女子大学学芸学部音楽学科卒業。同大学音楽学会《頌啓会》特別専修生修了。関西二期会オペラ公演「魔笛」夜の女王で好演。薮下英子、関定子各氏に師事。関西二期会会員。



**諏訪部 匡司(テノール)●タミーノ**  
 大阪音楽大学卒業、同専攻科修了。これまでオペラ・宗教曲等に多数出演。第29回摂津音楽祭奨励賞受賞。現在、関西二期会準会員、ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団正団員。



**鬼一 薫(ソプラノ)●パミーナ**  
 神戸女学院大学音楽学部卒業。オペラ、第九や宗教曲のソリストとして活躍。関西二期会、神戸音楽家協会各会員。神戸女学院大学、神戸山手女子高等学校各非常勤講師。



**西尾 岳史(バリトン)●パパゲーノ**  
 大阪音楽大学専攻科修了後、渡伊。第18回日本歌曲振興会日本歌曲コンクール第2位。オペラで演じた役柄は50以上。佐川吉男音楽賞、三菱UFJ信託音楽賞奨励賞など受賞多数。



**西田真由子(ソプラノ)●パパゲーナ**  
 神戸女学院大学音楽学部卒業。和歌山音楽コンクール第1位・同市長賞等受賞。オペラの主役や第九ソリストの他、文化庁事業としてリサイタル開催。神戸女学院大学音楽学部非常勤講師。関西二期会会員。



**萩原 寛明(バリトン)●弁者**  
 京都市立芸術大学音楽学部卒業、同大学院修了。ウィーン国立音楽大学卒業。オペラや演奏会にソリストとして多数出演。関西二期会、日本シューベルト協会各会員。神戸女学院大学講師。



**橋本 恵史(テノール)●モノスタス**  
 大阪音楽大学大学院歌曲研究室修了。ドイツ・ハンブルグ音楽院を最高点で修了。クラシックの常識に捕われず、主役から脇役、女役まで歌い演じ分ける貴重なテノール歌手。World Music Project代表。



**白石 優子(ソプラノ)●第一の侍女**  
 大阪音楽大学卒業。第7回東京国際声楽コンクール奨励賞等受賞。13年みつなかホール主催事業にて初リサイタルの他、数多くのオペラに出演。関西二期会、堺シティオペラ、宝塚演奏家連盟各会員。



**櫻井 孝子(ソプラノ)●第二の侍女**  
 大阪芸術大学演奏学科卒業。オペレッタの主役で活躍の他、義援金付弾き歌い「蕾コンサート」企画演奏。イタリア声楽コンクールソ金賞。飯塚新人音楽コンクール第2位。枚方演奏家協会他所属。



**山田 愛子(メゾソプラノ)●第三の侍女**  
 神戸女学院大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修了。松方ホール音楽賞、坂井時忠音楽賞等受賞。関西二期会会員、神戸市混声合唱団団員、神戸女学院大学非常勤講師。



**大嶋真規子(ソプラノ)●第一の童子**  
 大阪音楽大学卒業。関西二期会オペラ研修所修了。神戸新人音楽賞コンクール優秀賞。リサイタルの他、オペラやミュージカルに多数出演。関西二期会準会員。西垣俊朗、西垣千賀子の各氏に師事。



**山田 千尋(ソプラノ)●第二の童子**  
 相愛大学音楽専攻科修了。ヴェルディ音楽院ディプロマ取得。兵庫県高等学校独唱独奏コンクール銅賞。ブルガリアにてオーケストラと共演。米田哲二、泉貴子、出口武、西垣俊朗の各氏に師事。関西二期会準会員。



**麻生 真弓(メゾソプラノ)●第三の童子**  
 大阪音楽大学卒業。神戸酒心館の酒蔵オペラ「蝶々夫人」、ミレニウムホール推薦コンサート等に出演。西垣俊朗、西垣千賀子、福田かおりの各氏に師事。神戸音楽家協会、寝屋川演奏家クラブ各会員。



**西垣 俊朗(テノール)●第一の武士**  
 大阪音楽大学大学院修了。在学中より活躍し、数多くのオペラで好演する他、特にエヴァンゲリスト歌いとして高く評価されている。神戸市文化奨励賞、兵庫県芸術奨励賞受賞。関西二期会理事。



**西垣 俊紘(バリトン)●第二の武士**  
 東京芸術大学卒業。「恋するサー・ジョン」で新国立劇場オペラデビュー。東京オペラプロデュース、オペラアクトーズ各メンバー、神戸ほたる火コンサート協会会員。関西二期会準会員。日本芸術学園教諭。



# Profile

## モーツァルト室内管弦楽団 *Mozart-Kammerorchester Japan*

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、50年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いづみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を開催。また10年からは〈ペーター・ヴェン・シリーズ〉を、19年からは〈創立50周年シリーズ〉を開始している。2017年1月にNPO法人となる。2020年3月に活動停止の予定。

●メンバー	コンサートマスター	釋 伸司	釋 伸司	釋 伸司	釋 伸司	釋 伸司
第1ヴァイオリン	釋 伸司	本多 智子	稲庭真理子	松本 紗希	森住 憲一	
	北村 奈美					
第2ヴァイオリン	中川 敦史	久津那綾香	徳田 雅子	福岡 昂大	幣 晴代	
	嶽 織江					
ヴィオラ	阿部 真子	松井 紀子	坂本 彰子	高野ちか子		
チェロ	日野 俊介	境 綾子	石塚 俊	尾崎 達哉		
コントラバス	石川 徹	土屋 綾子				
フルート	大江 浩志	毛利 恵美				
オーボエ	福田 淳	見取 香奈				
クラリネット/バセットホルン	高橋 博	門 小夜子				
ファゴット	佐伯 利之	倉永 晴美				
ホルン	佐藤 明美	垣本奈緒子				
トランペット	大西 由起	中島 真				
トロンボーン	鈴木 智	新田 旭	寺田 糧			
ティンパニ	竹田 淳起					
チェレスタ	渡里 拓也					
インスペクター	中川 敦史					
ライブラリアン	本多 智子					

## モーツァルト記念合唱団 ●合唱 *Mozart Choral Ensemble*

1991年にモーツァルト室内管弦楽団の要請を受け特別編成された合唱団。女声は若手プロを中心に、男声は合唱王国関西の著名合唱団の指揮者、パートリーダーに参加を要請、1991年7月に益子務氏の指揮のもと発足、同年12月モーツァルト没後200年を記念してモーツァルト室内管弦楽団第48回定期演奏会でモーツァルトの「レクイエム」を協演後、毎年協演を重ねる。93年初の単独自主公演でジャニーヌ・ワグナー氏を客演指揮者に迎え、「ロジェ・ワグナー・メモリアルコンサート」を開催。98、2000年ベルギー・フランドル政府の招きで文化交流使節として2度にわたりベルギー演奏旅行を行い、ブリュッセルのサン・ミッシェル大聖堂での演奏、FM-3での放送などで大成功を収めた。2000年設立10周年記念にCD「ロッシェニ小荘厳ミサ」をリリース。2010年には神戸で行われた日本音楽療法学会での大会長公演、2011年モーツァルト室内管弦楽団との合唱団創立20周年記念コンサートに引き続き、2012年には合唱団の自主公演として20年の歩みを記念したコンサートをいづみホールで開催。

●メンバー	ソプラノ	アルト	テノール	バス	練習ピアニスト	字幕操作
	赤城 史穂	御池あゆみ	岡本 弘信	小島 博	渡里 拓也	竹鼻 愛恵
	秋田美喜子	古結 洋子	桑田 明和	野村 透		
	銭田 美幸	中口真由美	近藤 達夫	林 龍太郎	ピーター・フィンケ	米岡 実
	平芳真寿美	中根 佳江	陶山 悟嗣			
	松井ひとみ	林 理恵	吉川 完			

# TCG 高松コンストラクシヨングループ

(東証一部上場)



## 高松建設

高松テクノサービス(大阪)

高松エステート(大阪)

高松テクノサービス(東京)

高松エステート(東京)

住之江工芸

JPホーム

金剛組

中村社寺

日本オーナーズクレジット

## 青木あすなる建設

あすなる道路

青木マリーン

東興ジオテック

みらい建設工業

エムズ

新潟みらい建設

島田組



会 長 谷 口 安 平 (京都大学名誉教授)  
 監 事 玉 井 英 二 (三井住友カード特別顧問)  
 顧 問 伊 藤 郁 太 郎 (大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長)

《法人会員》(50音順)

荒川化学工業	日 本 製 鉄	中 西 金 属 工 業	三 井 住 友 カ ー ド
関 西 電 力	住 友 生 命 保 険	羽 車	三 井 住 友 銀 行
小 林 製 薬	住 友 倉 庫	林 六	
阪 野 商 店	ダ イ キ ン 工 業	福 山 製 紙	
カントリホールディングス	高 松 建 設	マ キ 工 業	

《個人会員》(入会順・敬称略)

深 田 晴 世	阪 野 和 子	松 井 香 代 子	近 藤 康 博	早 山 雅 子
福 岡 隆 子	和 田 暁 夫	山 本 道 子	松 江 忠 二	久 木 山 幸 次
梅 原 一 哲	桑 名 孝 子	大 磯 隆 一	宇 民 正 之	秦 野 雅 典
石 本 三 千 也	石 光 正 男	大 原 清 司	高 松 孝 之	松 田 原 孝 子
岸 田 克 己	川 島 啓 助	大 原 典 子	後 藤 喬 雄	山 之 口 玲 子
梅 村 博 也	豊 田 成 子	橋 本 博 子	島 村 須 美 子	内 海 昭 幸 子
屋 良 卍 佐 治	切 畑 敦 詞	松 谷 郁 子	青 山 由 子	内 山 下 邦 子
國 友 正 和	三 石 武 男	山 下 鉄 男	文 野 彰 子	小 谷 公 穂
稻 垣 千 代 子	神 林 恒 道	萬 野 尊 昭	富 田 昭 子	森 井 英 雄
浮 田 俊 太 郎	杉 浦 村 和	松 田 富 久 子	富 土 橋 康 男	山 本 正 鑑
桑 山 弘 子	野 村 隆 子	榎 原 良 行	土 橋 瑞 義	圓 井 多 美 子
三 谷 郁 子	玉 手 賀 熙 郎	渡 辺 久 美 子	笠 松 義 享	笠 田 順 子
三 浦 信 一 郎	有 賀 野 哲 郎	能 宮 北 浩 二	米 坂 真 知 子	作 内 海 壽 美 子
水 島 敬 夫	佐 野 柳 陽 一	市 崎 英 好	太 田 和 真 子	内 前 田 西 山 藤 伸 夫
安 藤 邦 洋	田 中 四 郎	櫛 木 謙 二 郎	栢 小 早 川 清 恵	村 西 山 藤 伸 夫
阿 村 本 孝 夫	松 井 と も 子	森 原 隆 登	金 岡 幸 勇 人	佐 藤 匿 名 1 名
村 本 幸 道 士	得 田 栄 蔵	長 谷 田 恭 弘	西 野 信 光	
笹 川 忠 桂 子	菱 谷 勝 次 郎	富 田 乾 賢 次	久 木 山 信 彰	
緒 林 昭 彦	豊 田 紘 生 子	乾 井 狩 彌 介	中 西 規 律 委 子	
確 井 昭 重 龜 門 子	河 渚 清 子	井 井 狩 啓 隆 宏	中 西 濱 崎 寛 成 之 助	
長 井 重 多 尚 子	佐 竹 悦 朗	原 田 東 里 香	濱 上 田 成 之 助	
岸 田 野 多 尚 子	宮 崎 口 外 志 武 浩 清 秀 純	曾 我 見 郁 夫	奥 野 哲 朗 子	
祐 野 定 秀 光 子	森 本 山 清 秀 純	筑 我 見 郁 夫	野 村 正 朗 子	
金 定 嘉 也 子	小 山 清 秀 純	筑 我 見 郁 夫	田 中 道 子	
日 高 穂 和	野 原 井	芋 阪 規 子	田 釜 江	
馬 場 明	松 井	笠 松	釜 江	

会 費・個人会員につきましてはは年会費1口2万円です。・法人会員につきましてはは年会費1口10万円です。  
 会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)  
 ・ご同伴者は10%割引となります。  
 ・関連演奏会のご案内またはご優待を致します。  
 ・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。  
 ・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。